

アタッチメント・ライフ

報告号

- ・ 全面リニューアル「育児セラピスト 1 級」講座
- ・ シンポジウム 「命よりこころ 2022」ほか



第 13 回 育児セラピスト全国大会 in2022

再発見

～あたりまえに光をあてる～



一般社団法人
日本アタッチメント育児協会

第 13 回 育児セラピスト全国大会 in2022

再発見～あたりまえに光をあてる～

P.1 開会あいさつ

1 日目：スキルアップ講座

P.3 全面リニューアル「育児セラピスト 1 級（後期課程）」

2 日目：シンポジウム

P.9 寺下謙三先生（医学博士・寺下医学事務所 代表）
基調講演「命よりこころ 2022」

優秀実践表彰式・実践発表

P.13 子育て支援部門 岡田 光代さん
第二の人生は、子育て支援で社会起業家に！

P.15 ダイバーシティ部門 竹安 雄一さん
パパの学びを教育界にフィードバック

P.18 ダイバーシティ部門 佐伯 侑大さん
父として、教育者として、育児セラピストとして、
発信し続ける

P.22 ランチミーティング

P.22 恒例！お悩みスーパーバイズ 2022

P.29 あとがき

資格アイコン

育児セラピスト

-  前期課程（2級）
-  後期課程（1級）
-  シニアマスター
-  ライフサポーター

エントリー

-  アタッチメント・ベビーマッサージ
-  アタッチメント・ヨガ(forマタニティ&ベビー)
-  アタッチメント・食育
-  ベビーキッズ・あそび発達
-  プレスクール・あそび発達
-  子育てマインドフルネス
-  アタッチメント発達支援 アドバイザー
-  アタッチメント・ペアレンティング

スキルアップ

-  アタッチメント・キッズマッサージ
-  アタッチメント・ジム
-  アタッチメント心理 カウンセラー
-  トレーナー



第13回 育児セラピスト全国大会 in2022

再発見～あたりまえに光をあてる～



はじめに

コロナ禍も少し収束の兆しを見せ、全国で旅行支援が再開し、東京ではGo to Eat も再開されるなか、「全国大会 in 2022」が行われました。

「第13回」の今年は、1回目の開催から13年目をむかえた年です。わたしは、ものごとを12年サイクル（周期）でとらえています。つまり、全国大会は、昨年でちょうど誕生から1サイクルを終え、13年目の今年は、「次のサイクルのはじまり」と言えます。確かに今年は、あたらしいサイクルに入ったことを実感させる年でした。

コロナ禍によって見出された「オンライン講座」は、当初「発明レベル」のインパクトでしたが、その価値もすっかり定着しました。そんな今年は、「対面への回帰」の現象が象徴的だったと思っています。



オンラインではなく、あえて対面講座を選ぶ

空間を超えるオンライン講座の可能性を実感したうえで、今年は「あえて対面講座を選ぶ」方がみられるようになりました。これまでなら、コロナ禍で対面講座を選ぶのは、回線の問題やPCスキルの不安からでした。しかし今年は、オンライン講座の受講経験のある方が、あえて対面講座を選ぶというケースが目立ちました。

この傾向は、今年の全国大会スキルアップ講座でも同様でした。

「オンラインも便利だけど、そろそろ対面の刺激が欲しい!」

そして、実際に受けた方は、口をそろえておっしゃいます。

「やっぱり、対面はいい。刺激が違う!」と。

これは、コロナ禍でオンラインを余儀なくされたからこそその反動だと思います。同時に、原点に帰ることによって「対面の価値」を“再発見”した現象にほかなりません。



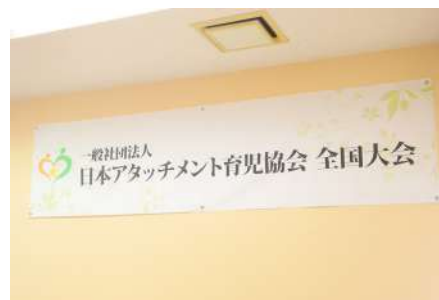
はじめての試み、オンデマンドは、果たして成立するのか?

空間を超えてつながることが出来る「オンライン講座」は、やはり重要です。より多くの方に受講機会が広がり、多様なメンバーが集まる“場”を作ることが可能です。

それと同時に、実際に会場で会って学ぶ「対面講座」での経験と刺激も捨てがたい価値です。

さらに言えば、空間だけでなく時間をも超える「オンデマンド受講」についても、今年の全国大会スキルアッ

プで初チャレンジしています。「いつでも、どこからでも学べる」動画視聴による受講は、ある意味で画期的とも言えます。しかし、わたしはこれまでオンデマンド講座や通信講座には、否定的な立場をとり続けてきました。なぜなら、ライブではないからです。人と人との出会いがないからです。それでは、多くの人にとって身につかない上に、そもそも学習行動さえ起こりにくいと考えています。



オンデマンドは講座ではなく、あくまで受講スタイルです

それなのに今年、動画視聴による「オンデマンド受講」を試験的に導入しました。それは、ライブ開催としての「対面講座」と「オンライン講座」があり、それに付属する受講スタイルとして導入したからです。あえて「講座」ではなく「受講」と言っているのは、そのためです。



ですから、今回オンデマンド受講する方は、1日目に「対面講座」か「オンライン講座」のどちらかを受講して、残りの科目についてできる選択となっています（再受講の場合は、オンデマンドのみも可能としています）。

あらたな試みは、来年からのスタンダードに

今回の全国大会での新たな試みは、実際に受講された皆さんからのフィードバックをもとに改良して、他の講座にも導入していこうと考えています。

講師としてのわたしの感触は、上々でした。対面とオンラインのハイブリッドは、空間を超えて、全国の方々といっしょに学べる「場」を作ることが出来ました。さらに、対面会場の臨場感や刺激、そこでの雑談ややりとりは、オンラインの方々とも共有できました。さらに今回、オンデマンド受講を導入したことによって、どうしても日程が合わなかった方々に、スキルアップとシンポジウムの両方に参加する機会を提供することができました。実際に「今年はオンデマンドがあって助かりました!」というお声を、たくさんいただきました。

次のサイクルの1年目である今年は、こんなチャレンジから始まりました。2023年は、対面・オンライン・オンデマンド、それぞれの良さを生かしつつ、これまで出来ていなかったことに挑戦していこうと、決意をあらたにしております。

これからも、どうぞよろしく、おつきあいください。

一般社団法人日本アタッチメント育児協会

理事長 廣島大三

全面リニューアル・育児セラピスト 1 級（後期課程）



今年の全国大会スキルアップ講座は、全面リニューアルした「育児セラピスト 1 級（後期課程）」でした。内容だけでなく、講座の「設計」に関しても、新しい試みを取り入れています。対面講座とオンライン講座の受講生が、同じ場を共有して学び合えるハイブリッド開催に比べて、今回はじめて動画視聴によるオンデマンド受講にも対応しました。これによって、空間だけでなく時間の制約からも解放され、まさに「いつでも、どこからでも」受講できるようになりました。

オンデマンドに、“学びのモチベーション”を与えるカギとは？

これを実現するためには、ひとつの課題をクリアする必要がありました。これまでわたしが、オンデマンドと通信講座に否定的な立場をとってきた所以でもあります。

それは、当協会の講座で一番大事にしている「人との出会い」がないことです。

動画視聴によるオンデマンドや通信講座は、当然のことながらライブではありません。講師とも受講生とも実際には出会うことはありません。過去のある回の映像と音声を聞くだけです。その後ろに出

会のストーリーは内包されていません。

これでは、理解が深まらないだけでなく、よほどの強い意志を持たない限り、観てもらうことさえ難しいのです。また、受講後の人と人との「つながり」も起きません。この問題をクリアしない限り、オンデマンドや通信の導入には踏み切れませんでした。

ふたを開けたら、オンデマンド受講のモチベーションは全開だった

今回は、ライブによる対面講座とオンライン講座を前提とした「設計」で、この問題をクリアしました。リニューアルされた科目である「発達心理学」と「アタッチメント理論」を 1 日目の「対面講座」か「オンライン講座」どちらかでライブ受講します。残りの「コフート自己心理学」「コミュニケーション学」「社会学」「母性父性」はオンライン講座で行いました。これに出られなかった人は、その動画を後日オンデマンド受講できるようにしました。

この設計なら、オンデマンド受講する方も、少なくとも 1 日目の「対面講座」か「オンライン講座」をライブで受講しています。そこで学びスイッチは入り、モチベーションが醸成されます。さらに、オンデマンド動画の中には、自分とひとしよに 1 日目を受けた仲間の姿を観ることができます。すでに「出

会いのストーリー」を持っているので、動画を観ることで、モチベーションをさらに上げることが出来ます。講師や受講生とのその後の「つながり」も期待できます。このような設計にすれば、動画視聴によるオンデマンドの受講スタイルが成立すると踏んだのです。

実際にやってみたわたしの感触は、今号の「はじめに」のなかで述べているとおりです。オンデマンド受講がはじまると、多くの方から「時間が足りません」「視聴期間の延長をお願いします」という声があがりました。そして、実際に延長すると、「何度も見て、学びを深めたいと思います」とのお声が寄せられました。これらの声は、わたしの中の“確かな手ごたえ”となりました。実際に観てくれるから、モチベーションが高まっているからこそその声であったからです。

「100年前も、今日も、100年後も変わらないもの」をリニューアルする意味とは？

内容も受講スタイルもあたらしくなった「育児セラピスト1級」ですが、そろそろ内容の話に入りましょう。

本来、われわれ日本アタッチメント育児協会の講座内容は、「100年前も、今日も、100年後も変わらないもの」であることが原則です。しかし、それはリニューアルの必要がないということではありません。

時代背景とともに、社会や人の考え方、常識さえも変わるのが、われわれが生きている世の中です。

本質的なことは変わらなくても、その伝え方や前提条件、事例などは、時代に合わせた方が、よりリアルに理解できます。そうやって学んだ知識やスキルこそ、より使えるものとして身につくものだと、わたしは考えます。だからこそ、われわれ「伝える側」は、時代の「変わり目」には、その都度対応していかなければなりません。

12年前の“あたりまえ”は、いまや、“あたりまえ”ではなくなっている

今回の「変わり目」は、2つあると考えています。

「育児知識の重要性が認識され、子育てを学ぶことが一般化したこと」

「アタッチメントが一般の人に認知されるようになったこと」

10年前はそうではありませんでした。われわれの講座に足を運ぶのは、保育士・看護師・助産師・子育て支援といった専門職の方が大半でした。そして、アタッチメントという言葉は、ほとんど通じませんでした。

いまは、多くの親が育児知識を得るために、子育てを勉強しています。われわれのような専門職向けの講座に来て学ぶ一般企業に勤める親も増えています。そのため、いまの親御さんは、アタッチメントをはじめ、発達心理学や教育学の専門用語をよく知っています。





親は、専門用語や言葉ばかりを知りすぎてしまった

なまじ言葉を知ってしまうと、そのことを理解したような気になってしまうことがあります。そうすると、本当に大事なことが伝わりません。「そんなの知ってるよ」で済まされてしまいます。

われわれ子育て支援は、これを前提に親対応せねばなりません。多くの専門用語や学者の名前を知っていて、物知りだと自認する親御さんに、それら用語や学者の背景となる理論や、子育てにおける捉え方までを教える必要があります。そういう意味で、本当に難しい時代になっています。

変わり目の対応、ひとつめは「生涯発達」という概念

この「変わり目」に対応するために、「発達心理学」では、あらたに二人の学者とその理論を取り入れ、より深い“メタ認知”によって子どもの発達をとらえられるようにしました。“メタ認知”とは、自分の認知行動を俯瞰的な視点で捉えたり、複数の角度から捉えることによって、理解を深めたり、ものごとを正しく把握する思考のことを言います。

一つ目は、エリク・エリクソンの「ライフサイクル理論」です。このねらいは、「子どもの発達」を、「生涯発達」のプロセスのひとつとして捉えるためです。生涯発達とは、ひとは生涯にわたって発達し続ける存在ととらえるもので、近年注目されるリカレントやリスキリングなどにも対応する考え方です。

二つめは、いまや教育界で大注目の「非認知能力」

二つ目は、ジェームズ・ヘックマンの「非認知能力」です。近年、教育学の分野で注目されている概念で、社会情動的スキルとして、保育所保育指針にも掲げられています。非認知能力は、アタッチメントと深く関係しており、将来の頭の良さや幸せ度に関連することがわかってきています。この非認知能力の敏感期ともいえる就学前の幼児期の発達の理解を深め、幼児教育の可能性をひろげるものとして取り入れました。

アタッチメントは、より専門的に、より多様に

「アタッチメント理論」においては、よく勉強している親御さんが増えていることを受けて、より専門性を深めた形になりました。例えば、これまで「安定型」と「不安定型」としてシンプルにとらえてきたアタッチメントタイプについて、詳細に扱うようにしました。本来は、上の資格であるシニアマスターで扱っていた部分です。さらに、愛着障害に関しても、新たに章を立てて扱っています。

また近年のアタッチメント研究で注目されている「アロマザリング」を追加しました。共働き夫婦の子育てや、シングルの子育てを背景に、あたらしいアタッチメントの捉え方としてのアロマザリングを学び、それを子育て支援にどう活かせるのかについても扱っています。



講師として登壇したわたしに起きた大きな発見、ひとつはメタ認知

今回のリニューアル版に登壇して、わたし自身にも発見がありました。ひとつは、わたしに起きた「メタ認知」です。とくに科目コンテンツを全面的に新しくした「発達心理学」と「アタッチメント理論」では、受講生だけでなく、講師のわたし自身にもより深いメタ認知が起きたのを実感しています。

例えば、これまでも幼児期の発達について、モンテッソーリを伝えながら、非認知能力の話も交えて伝えていました。しかし、今回ヘックマンを科目コンテンツに加えたことで、わたしの中に「意図」が生まれ、その意図は、他の科目とのつながりを生みました。その結果、アタッチメントと非認知能力の形成という文脈で、幼児期の発達を、より複層的に伝えることができました。まさに伝え方のメタ認知です。

愛着障害やアタッチメントタイプの詳述が加わったことで、よりリアルな現場の背景を前提にした講義ができました。さらに、発達心理学にエリクソンが加わったことで、「大人のアタッチメント」を伝える際に、「生涯発達」の概念をベースに伝えることができました。

もう一つの発見、それは「再受講の価値」

もう一つの発見は、「再受講」の価値を再発見できたことです。というのも、今回はスキルアップ講座は、既存講座のリニューアルだったので、じつは7割の方が再受講での参加でした。その方々の声を聞いて、ある発見がありました。

「まるで新しいことを学んだときのような発見があった。」

「経験を経た今だからこそ、ようやく理解できた箇所が、いくつもあった」

「これまで、それぞれ別の理解をしていた内容が、一つにつながった感じがした」

なぜ、このようなことが、起こったのか？

ひとつ目の理由は、「経験値」の違いです。学んだ知識を現場に持ち帰って、現場で経験を重ねる。そうすると、より高次の認知が生まれる。ピアジェの言うスキーマの同化と調節です。（受けた方には通じるはず・・・）その経験によって、“前回の私”には理解の及ばなかった次元での理解が、“今回の私”には起こる。まさに生涯発達です。

もうひとつの理由は、「人」と「場」の違いです。再受講では、講師も受講生も違います。人が変わ



れば、「場」が変わります。これが、新たな学びのアプローチを作るのです。わたしが、講座に「人との出会い」を重視するのは、このためです。

現場で経験を積んだからこそ、 学びにもどる意義がある

つまり「再受講は、単なる再受講ではない」ということです。この“あたりまえ”を、これまで、わたしは見逃していました。そして、今回はじめて気づかされました。

そういえば、アタッチメント・アカデミアのコンセプトのひとつに「社会に出たから、学びにもどる意義がある」というのがあります。興味のある方は、アタッチメント・アカデミアのHPをご覧ください。
(<https://www.attachment.jp/>) このコンセプトは、ここで言っていることと同じです。

「再受講」は、すべての講座で可能なうえ、安価ですので、ぜひ検討されると良いと思います。現場で経験を積んだからこそ、学びにもどる意義があります。あたらしく理解できることがあります。発見できることがあります。

仲間がいるしあわせ、集う場がある しあわせ、そんな“あたりまえ”を 再発見

今年の全国大会スキルアップ講座は、これから

の新しい“講座のあり方”に道筋をつけるものとなりました。それと同時に、これまで“あたりまえ”と思っていたものの価値を再発見させてくれるものでもありました。

わたしは、いまワクワクしています。来年はアタッチメント・アカデミアを拠点に、新しい展開にチャレンジします！今回その道筋と見通しがたちました。これからの日本アタッチメント育児協会は、ますます皆さんとつながり、出会ってゆく所存です。

わたしたちには、対面の場がある。オンラインの場もある。それらをつなぐハイブリッドもある。これを前提にすれば、オンデマンドで時空をも超えられる。

そして、なにより、わたしたちには、仲間がいる。何にも代えられない“つながり”がある。

そんな“あたりまえ”を再発見できました。

今年も、ありがとうございました。

育児セラピスト1級（後期課程）講座
全面リニューアル・0期担当講師 廣島 大三





全面リニューアル!「育児セラピスト 1 級」 受講生の感想

どの時代でもやはりアタッチメントは 欠かせないものと認識しました

色々な学者の育児理論を学ばせていただき、参考になりましたし、どの時代でもやはりアタッチメントは欠かせないものと認識しました。社会学では、対話法を具体的に学ばせていただき、すぐくためになりましたし、なにより、話を聞き、認めることの大切さを知りました。

また、改めて家族間のコミュニケーションの大切さを気づかされました。

いまの保育士の仕事や、また今後やりたいと思っているベビーマッサージなどの強みになったと思います。

貴重な学びをありがとうございました。

保育士 30代 奈良県

理事長の熱い想いとも相まって、 アタッチメントの重要性を深く感じました

1級講座を受けると、2級より内容がより深く学ぶことができ、また理事長の熱い想いとも相まって、アタッチメントの重要性を深く感じました。

私自身、子育てを終え（子どもは31歳と27歳です）自分が子育てをしているときに知っていたら、もっと丁寧に子どもたちに接することができたのかなと感じることが多々ありました。

ただ、子育てが終わったいまだからこそ、あらためて、いま子育てしている方々に自分が学んだことを伝えていくことができるんじゃないかと考えております。

大変内容の濃い講義で、大変興味深い時間でした。

キャリアコンサルタント 50代 神奈川県

自分は、子どもと関わるこの仕事が 好きだと改めて感じました

コフォートの自己対象体験が印象に残っています。自分が日々保育をするなかで、保護者対応をしているときに自然としていることだと気づきました。今回学んだことを根拠にして頭の片隅において保護者対応をしていきたいです。

学んだことを、いま一度自分なりに復習をして、これからの仕事に活かして今まで以上に保護者に寄り添える人でありたいです。

これからもまだまだ学びたい気持ちでいっぱいです。

講座を受けるたびに思うのですが、大人になってからの学び直しは学生時代より学びたいという気持ちが強く、異なる職種の方と話しができたりすることは本当によい刺激です。

自分は、子どもと関わるこの仕事が好きだと改めて感じました。

2日間の講座と全国大会を含む3日間、楽しい時間を共有できたことを嬉しく思います。

保育士 30代 岡山県

繰り返し学ぶことで、忘れていた内容や 子育て支援の場で大切なことも 再認識できました

毎年の全国大会のシンポジウムの学びに加えて、「スキルアップ講座」があることで、自分自身がスキルアップできました。

そして、仲間と一緒に学ぶことで、子育て支援の育児セラピストとしてのモチベーションも上がりました。

かなり前に受講した内容も繰り返し学ぶことで、忘れていた内容や子育て支援の場で大切なことも再認識できました。

また、自分の子育てのときとは社会情勢の変化とともに変わってきている内容を知ること、ママさんたちにも「自分のものさし」で話さずに伝えることができると思います。（自分の孫にも…）娘も高校の教師をしていますので、学んだことについて話し合うのも楽しみです。

【再受講】保育士・子育て支援員・子育てサロン代表
60代 神奈川県

「アタッチメント関係は循環する」 その通りだと思いました

再受講で参加いたしました。お話の1つ1つがいまの子育て支援の現状にそった内容で頷くことばかり！

学術的根拠や歴史的な背景をもった育児知識も広きに渡り深く学べました。

1日が楽しく、あっという間に時間が経っていました。理事長の熱い想い、エネルギーを感じることができ、ここで学べたことの幸福感も味わっております。

私自身の気づきといたしましては、お母さん方に安心感を持ってもらえる寄り添いをしたいんだと改めて感じ、そのために自分ができることを全力で精いっぱい役に立っていききたいと思います。

アタッチメントの重要性は母子間だけでなく、すべての人間の関係性において同じように大切なものであり、「アタッチメント関係は循環する」その通りだと思いました。

もう1つ、自分の言葉でお母さん方にアタッチメントによって育まれる非認知能力の大切さも伝えていきたいです。

今回の受講、たくさんの学びがありました。感謝の気持ちでいっぱいです。

【再受講】保育士 50代 埼玉県

このほかのご感想は

こちらから
ご覧いただけます！



再受講の方の
ご感想はこちら



シンポジウム

寺下謙三先生 基調講演



命よりこころ 2022

12年間にわたって伝えつづけてきた「命よりこころ」を、 13年目の今年リニューアルしました。

じつは寺下謙三先生は、われわれ日本アタッチメント育児協会の“最初の共感者”です。2007年の協会設立当初、われわれのコンセプトである「子育てにおける親教育による心の病の予防的試み」に、医師の立場から真っ先にご賛同いただき、まだ理事がひとりも決まっていなかったときに、最初の理事を引き受けてくださいました。その後2009年、育児セラピスト1級の第一期講座のなかで、「命よりこころ」の特別講演をしていただきました。この時の録画映像が、これまで伝えられてきました。

12年の時を経ても、「命よりこころ」は、まったく色褪せることはありませんでした。それでも寺下先生は、いまの社会背景で「命よりこころ」をどのように伝えることができるのか、という命題に取り組んでくださいました。「これまでの集大成をつくる」思いで、今回取り組まれた「命よりこころ 2022」は、まさに渾身の内容でした。

「これは、すべての育児セラピストに聴いてもらいたい」

わたしは、そう思っています。そして、そのダイジェストを、ここでお伝えします。

講演は、ひとつの問いかけからスタートしました。

親として、究極の問いかけ

生まれた子どもに、どのような期待をしますか？

これは、親として子どもを育てる上で、何度も向き合わなければならない「究極の命題」です。健康、頭がよい、社会的地位、お金持ち、やさしい、親孝行・・・いろいろ考えた末にゆきつくのは・・・

幸せになってほしい

ということではないでしょうか。これに異を唱える人はいないでしょう。これについて、哲学の概念をもちいて、さらに深く掘ります。哲学とは、「それは何か？」と自問して、深く考えを巡らせること。では・・・

幸せとは？

子どもの幸せを構成する要素は、たくさんあるでしょう。そもそも親は、ただ赤ちゃんがかわいくて、愛着をもって撫でまわしたくなる。赤ちゃんは、そうされて幸せになる。言い換えれば、「アタッチメントを豊かに育む」。そのために、アタッチメント理論に基づいた行動をする。子どもの幸せは、そんな親心の先にあるものだ、と言えそうです。

だからこそ、子育ての第一責任者は、両親です。

思春期の心の病は、どこからやってくる？

一方で、思春期の子どもの心の病は、年々増加しています。不安定で気まぐれ、逆切れする、引きこもる、リストカットする、物を壊す・・・

これは、だれの責任でしょうか？

子どもの心の成長にもっとも影響を与えるのは、親です。親が子どもに「悪い思い込み」を植え付けてしまった結果と言えます。この「悪い思い込み」は、子どもの脳を混乱させることで形成されます。幼少期であればあるほど、この混乱の影響は大きいものです。脳が混乱すると、「不安」が生まれます。「不安」は、「恐怖」や「怒り」を生み、やがては「攻撃」に転じます。だから、親は、子どもの脳を混乱させてはいけません。

「よい思い込み」は、子どもを幸せにする

親が、子どもの脳を混乱させなければ、「よい思い込み」が形成され、子どもは幸せを感じることができます。近年話題の「非認知スキル」も、これにあたると言えるでしょう。

父親は強いものだ

母親はやさしいものだ

両親は仲良いものだ

悪いことをすると叱られるものだ

親はわたしを守ってくれるものだ

この「思い込み」を、心理学ではスキーマとか、自動思考と言ったりします。



子どもは、執着せずに、愛着して、よいスキーマをあたえて育てる

ここでもう一つ、親としての問いかけをしてみましょう。

子どもは誰のものか

“私が入手した土地は、家は誰のものか”、“私が買った歴史的な名画は誰のものか”、“私が働いて得た給料は誰のものか”、“私が注文した料理は誰のものか”・・・これらの延長線上に、答えがあるのでしょうか。いいえ、この問いに絶対的な答えなどありません。しかし、すべてに通じる確かな事実が、ひとつだけあります。

執着すれば苦しい

愛着を持てば楽しい

親が子どもに執着すれば、子どもは苦しい。その苦しみは、子どもに「悪い思い込み（スキーマ）」を植え付けます。逆に、



親が子どもに愛着すれば、子どもは楽しい。その楽しみは、「よい思い込み（スキーマ）」を生みます。

■人格障害のスキーマとは？

人間の人格とは、その人が、「どんなスキーマをもっているか」です。

「規則に全部従うのは、愚か者だけだ」、「ナンバーワンでないと意味がない」、「私の行動によって、他人がどうなるかが、それは彼らの問題だ」、「私が望むことを手に入れるためには何でもするつもりだ」これらは、反社会性人格障害の典型的スキーマです。

「私は喜びや地位を得るのに失敗してはならない」、「私は誰よりも特別である」、「私は称賛されてしかるべきだ」、「私の持っている以上のものを誰も持っているべきではない」これらは、自己愛人格障害の典型的スキーマです。これらは、苦しいスキーマと言えるでしょう。子育てにおいては、避けたいスキーマです。

■育児の成功とは？

育児の成功とは？と聞かれても、模範解答などありません。あえて言うなら・・・

「心の底から子どもを好きになれること」でしょうか。「受験に失敗する子ども」、「友だちを裏切る子ども」どちらも親としては避けたいことですが、それでも、親が心の底から子どもを好きでいられば、子育ては成功と言ってよいのではないのでしょうか。

それを前提に、子どもたちへの願いを込めて・・・

カッコいい人間になってほしい

「カッコいい」は、「偉い」でも「有名な」でも「頭がいい」でも「お金持ち」でもありません。受験に失敗しても、奮起してまた立ち上がった子どもは「カッコいい」です。しかし、友だちを裏切る子どもは、カッコよくありません。そのことを反省して、二度と裏切らないと決めた子どもは「カッコいい」です。

勉強についても同じではないのでしょうか。教育は、ある意味で良心的強制と言えます。だから、勉強させることは大事です。しかし、イヤイヤやらせては身につきません。

「作業興奮」という脳科学の理論があります。まずやってみる。このとき大事なのは、安心できる環境です。すると、集中力が生まれ、パフォーマンスが向上して、さらにやる気生まれる。「やる気というものは、やれば生まれ、さらにやれば育つもの」だということです。

親は、最初のきっかけにだけコミットして、あとは安心できる環境をあたえれば十分です。それ以上に手や口を出しては、作業興奮が起きません。そのうち、子どもは、興味を抱くと、みずから作業興奮を起こして勉強するようになります。そうなった子どもは、「カッコいい」のです。

■アリストテレスの教え

アリストテレス哲学のなかに、ニコマコス倫理学というのがあります。2000 年も前に、人間にとって大切なことを、「3つの愛されるもの」として、まとめています。

善きもの

快適なもの

有用なもの

子育ては、

「もっとお金をかけるより、もっと気にかけて、もっと手間暇かけて」

が基本です。快適なもの、有用なものは、ある意味お金で買えますが、最も大切な善きものはお金をかければ得られるものではありません。気にかけて、手間暇をかけて、



はじめて得られるものです。

アタッチメントは、まさにこれに当てはまるのではないのでしょうか。

最後に、この絵をもって、締めくくりましょう。

アタッチメントは、「知識」と「愛情」の両輪で、はじめて成立します。それは、ピカソが15歳の時に描いた作品「Science and Charity（科学と慈愛）」を彷彿とさせます。

（文責）廣島 大三



寺下謙三先生 基調講演 受講生の感想

『安心できる人』でありたいと思いました

私達は「アタッチメントとは何なの?」「なぜ必要なの?」といつも考え、心に留めておくことの大切さを再認識しました。『安心できる人』でありたいと思いました。

とても内容の沢山詰まった興味深いお話でした。実際に学生さん達が授業で受けているようにシミュレーションできたこともそれぞれの立場を多角的に見られて良かったです。

スキーマ・自動思考のお話をもっともっと知りたいと思いました。そして自分自身にも思いグセがあるということに気をつけながら、お子さん、保護者さんを見つめていくことが大切なのだと思います。

40代 埼玉県

「カッコいい人間になる」これは自分への課題でもあるなと思いました

生きていく上で「こころ」で感じることの大切さを改めて認識いたしました。「カッコいい人間になる」これは自分への課題でもあるなと思いました。

幸せというのは物質的なものによって満足するのではなく、精神的な深い愛であるということをもいつも心に留めておこうと思いました。

実際に拝聴できて、とても嬉しかったです。

保育士 50代 埼玉県

バージョンアップした講演に、 1人で興奮冷めやりませんでした

12年前も寺下先生のお話を聞かせていただいた日は、興奮しておりましたが、今回は大学での講義でも医学生に同じようなお話をしてくださっているとのこと。バージョンアップした今回の講演に、興奮冷めやりませんでした!

認定こども園学園長 60代 宮崎県

「もっとお金をかけるより もっと気にかけて もっと手間暇かけて」という言葉に強く 惹かれました

私は寺下先生の「もっとお金をかけるより もっと気にかけて もっと手間暇かけて」という言葉に強く惹かれました。

いま、3歳と1歳の子供がいます。アタッチメントを育む最も重要な時期です。子どもたちの「心」を守れるよう、いましかできない貴重な育児期間を手間暇かけて愛情たっぷりと注ぎながら子どもたちと過ごしていきたいです。

保育士 20代 熊本県

このほかのご感想はこちらから
ご覧いただけます!



子育て支援部門

岡田 光代さん

取得資格



第二の人生は、子育て支援で社会起業家に！

岡田さんは、三重県松阪市で「子育て・孫育て」をテーマに、個人事業主として起業して「みつよルーム」の運営をされています。そもそも子育て支援の活動に至った出発点は、「アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクター養成講座」を受講したことだったそうです。



はじめは、アタッチメントとベビーマッサージ

もともと保育士をしており、その後、行政関係のお仕事をするようになりました。その仕事のなかで、地域イベントに関わり、ボランティアの方たちと接するうちに、保育や子育て支援において、もっと専門的に学びたい、専門性をもった関わりをしていきたいと考えるようになりました。そして、SNSで日本アタッチメント育児協会に行きつきました。

保育士の経験と、自身の子育て経験から、子育てで重要なのは、「乳幼児期の親子の関わり」であることは確信していました。「この思いをどうやって形にできるだろうか？」そう思っていた私にとって、アタッチメント・ベビーマッサージのコンセプトは、自らの思いとぴったり一致しました。

講座では、さまざまなワークをとおして参加者同士がつながり、専門知識と実践方法を学ぶことが出来ました。講座の最後に、ベビーマッサージのレッスンを自ら企画して実施した経験は、なににも代えがたいものでした。保育士資格では学ばないことを得られたことに、興奮を覚えました。

「アタッチメント・ベビーマッサージは、きっと子育ての役に立つ」

「すぐにでも教室を開いて、伝えたい！」

ボランティアでの地域との関わりは、やがて生きがいに！

さっそく行動をおこし、まずは、ボランティアで活動をはじめました。お父さんの子育て支援をす

る団体と知り合い、ここで「はじめてのベビーマッサージ教室」をおこないました。そうはいっても、最初は洋服を着たまの簡単なマッサージやふれあい遊びからのスタートでした。

こうして仕事をしながら、ボランティアの活動を続けました。行政の仕事と子育て支援のボランティア活動は相性がよく、公のイベントとつなげて幅を広げました。子育て講座をしたり、ワークショップを開いたりして、子育て支援と地域貢献の立場から関わりました。地域とつながって、自分の知識とスキルを役立てられることが、やがて私の生きがいとなってゆきました。その結果、10年以上この活動を続けることとなりました。

第二の人生で、挑戦がしてみたい、思いをカタチにしたい

ボランティア活動に生きがいを見つけた私ですが、だんだんと新たな思いがふくらんでゆきます。

「このまま雇われた働き方で、自分らしく生きてゆけるのか？」

「自分のできることで、事業を起こしてみたい」

「このままではいけない、自分のしたいことは、1





歳でも若いうちからやってみよう」更年期の危機感も手伝って、そう考えるようになりました。

そこで、さっそく地域でおこなわれる起業のための勉強会に参加しました。そこで行き着いたのは、コミュニティビジネスで起業することです。そして、「わたしだからできることはなにか？」を自らに問います。私にとって、その答えは明確でした。

「不安や孤独をかかえるお母さんに寄り添い、笑顔で子育てできるサポート」

ボランティアから起業へ

こうして、2020年、私は個人事業主となり「みつよルーム」を開設します。

開業においては、これまで10年以上つづけてきたボランティア活動での人脈やつながりが役に立ちました。

逆に、ボランティアでは、経験しなかった苦労もあります。一番は、収益をあげることです。長年ボランティアに携わってきたため、私に頼めば、無料で何とかしてくれると思われてしまい、なかなか収入につながらないという葛藤がありました。

そこでまず、商工会議所の会員になり、個人事業主として登録することで、ボランティアとの線引きをしました。「みつよルーム」の開設にあたっては、広告や宣伝をはじめ、ビジネスに関するサポートも受けました。

さらに、コロナ禍での開業だったため、「小規模事業者持続化補助金」の獲得にチャレンジして、見事採択され、補助金を得ました。この補助金によって、オンライン講座の環境整備、リーフレットや看板、ホームページなどを整えることができました。

みずから企画して、演ずるまでをおこなう出張講座と今後の展望

事業としては、「毎日の子育てが楽しくなる親子講座」の出張講座を、公民館や児童発達支援事業所で展開しています。児童発達支援事業所での講座は、インクルーシブ保育に対応して、ベビーマッサージとふれあい遊びをとおして、障がいのあるなしに関係なく、学び合う場を作っています。ここは、毎回定員オーバーで、定員を増員してもらって対応している状況です。

今後は、学校や、専門的な現場とつながって、この街の素材や歴史を活かして、この街だからこそできる方法で、アタッチメントを伝えてゆきたいと考えています。

ゆくゆくは、スタッフを雇って、自分は企画や制作に専念できる態勢づくりにチャレンジします。

ありがとうございました。



岡田さんの発表を聴いて・・・廣島の講評

岡田さんは、非常に稀有な人です。ボランティアを10年以上やって起業するというのは、まったく真逆の立場に移行することを意味します。相当な葛藤があったと想像します。わたしが、これまで数々の実践発表を聴いてきた中で、岡田さんのような事例は、ありそうでなかった“はじめての事例”です。

これを実現するには、ボランティア精神とビジネス感覚を両輪でまわす必要があったことと思います。お母さんへの思い、地域への思いとともに、事業化する実践力が必須です。岡田さんの場合、実践力が高いことが、特に目を引きます。これは起業家むきの資質と言えます。

どこでそう思ったかという、いきなり商工会に入っているんです。子育て支援で起業する人はたくさんいますが、商工会に入るのは、なかなか出来ません。コロナ禍で補助金を取得されていますが、これが採択される背景には、商工会の存在は欠かせなかったでしょう。

ここで言いたいのは、「商工会に入るといいよ」ということではありません。これくらいの行動をとれるだけの覚悟が、岡田さんにはあったということです。ボランティア時代からの子育て支援への「思い」と、起業して事業をおこすための「実践力」の両輪をまわせるのは、本当に稀有なことです。これからの活躍が楽しみです。

岡田さん、ありがとうございました。



ダイバーシティ部門

竹安 雄一さん

取得資格



パパの学びを教育界にフィードバック

竹安さんは、特別支援学級を担当された経験もある小学校教諭で、現在は兵庫県の教育委員会に勤務している筋金入りの教育者です。それとともに、当協会の活動として、「育児セラピスト Men's ゴレンジャー」のレッドとして、リーダー的存在となって、ほかの4人のメンバーとともにパパブログを展開してくれています。また、協会公式 YouTube チャンネルの生配信企画「育児セラピスト座談会」に、レギュラー出演されています。

そんな竹安さんは、育児セラピスト1級の認定証とテキストをずっと大事にされていて、ことあるごとに眺めては、初心に帰ったり、みずからの子育てを確認したりするそうです。



知識に感謝、学びに感謝、 出会いに感謝

いまの世の中、質の高い情報を得ることは、本当に難しくなっています。だからこそ、この協会で学んだことは、父親として、教育者として、人として、かけがえのない貴重なものだと思っています。会報誌も、毎回たのしみに読んでおり、とても勉強になっています。

父としての発見・・・知識も愛情の ひとつの形だったと気づいた

日本アタッチメント育児協会と出会えたことで、父親として「わが子のことが、もっともっと大好きになりました！」そして夫として「妻のことも、もっともっと大好きになりました」これは、アタッチメントを学んだおかげです。男性は、知識や理論を知った方が、理解するし、納得できるし、実践できます。



だから・・・

「知識も愛情のひとつ」

育児セラピストが、講座という形式だったからこそ、素直に受け入れられたし、納得できたと思っています。

教師としての発見・・・小学校教育は、子どもだけのものではなかった

小学校の教師としても大きな学びを得ました。この講座で、はじめて「愛着障害」という言葉を知りました。いままでは、発達障害に対応するために、子どもにばかり働きかけてきました。しかし、親子関係の問題もあることを知って、はじめてその子の家庭に目が向きました。「家庭を巻き込んだ教育」という視点が生まれたのです。今は、おうち（親御さん）一子ども一教師の三角形で伝えることを意識しています。

人としての奇跡の出会い・・・一生ものの友人に出会えた

ゴレンジャーのみんなとの出会いは、まさに奇跡でした。いまでは、昔からのマブダチのような存在になっていますが、メンバーとはオンライン上でしか会ったことがありません。

もともと、「男性の育児セラピストで座談会をしよう」という協会の企画として、たまたま選ばれた5人でした。座談会は大いに盛り上がったのですが、それにとどまらず、座談会終了後も5人の話が尽きませんでした。その盛り上がりが最高潮に達したころ、「この5人で本を出そう!」と私が言っ

たら、全員一致で意志は固まりました。早速、協会に相談しました。すると、理事長が対応してくれて「いまの時代、本じゃないよ! 5人でブログを書いてみたらどう?」と言われました。

こうして誕生したのが「育児セラピスト Men's ゴレンジャー Blog」です。パパとしての苦労や葛藤、ママとはちがうパパならではのスタンスで発信しよう、というコンセプトで順番にブログを書いて、もう3年目に入ります。

5人の出会いは、たしかにオンライン上だけでのものです。佐伯さんとも、今回はじめて対面で会いました。しかし、5人の絆は本物であり、まるで昔からの友人と同じです。間違いなく一生ものの友人です。こんな5人が、たまたま出会えたこと、つながれたこと、一つの方角に向かえたこと、そのすべてが奇跡だと思っています。

いつかは、認定講師に!

最後に、将来の展望として、いつかこの協会の認定講師として、教壇に立ちたいと思っています。ここの先生方は、憧れの存在です。「いつかは、自分もこの一員になりたい!」そうと思っています。

いまは、教育委員会で経験をつんでいます。いずれは学校現場にもどるでしょう。ゆくゆくは、子育て支援の現場に、この経験を還元できたらステキだと思っています。

わたしは、100歳まで現役をつらぬこうと思っています。教育の仕事を引き退したあとも、私の人生は続きます。それも含めた人生のビジョンとして、死ぬ瞬間まで社会貢献して、次世代になにかを遺

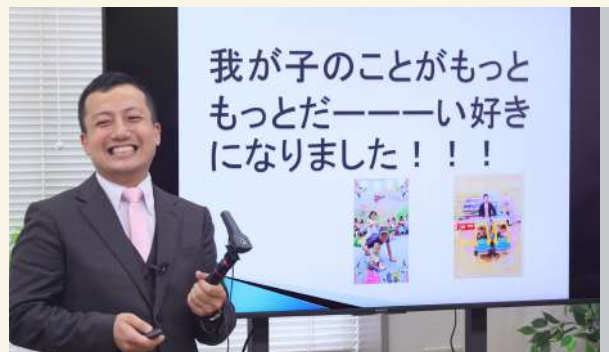


すような生き方をしたいと思っています。

できたいと思っています。

これからも、よろしくお願いします！

みなさんとともに、アタッチメントライフを楽しん



竹安さんの発表を聴いて・・・廣島の講評

わたしども協会のPRになるようなうれしいお話も交えていただいて、ありがとうございます。すごく嬉しい思いで聴かせてもらいました。

まず、教師としての竹安さんがスゴイのは、アタッチメントを学んで、子どもの問題は、子どもだけのものではないことに気づいて、親へのアプローチを実践したことです。小学校の先生で、こんな視点をもって、担任をされている先生が、一体どれだけいるのでしょうか？本当に、貴重な先生だと思います。

そして「育児セラピスト Men's グレンジャー Blog」ですよね。竹安さんをはじめ、5人とも非常に文章が上手です。そして着眼点もおもしろい。「パパってこんなことを考えてるんだ」という発見を読者に与えてくれます。

そして、最後の「認定講師になる！」という展望です！ぜひ、わたしに次ぐ男性講師として、活躍してほしいと本気で思います。竹安さんは、話は上手ですし、バックグラウンドもしっかりしていらっしゃいます。次世代を育てる活動であり、小学校教育への橋渡しでもありますので、公務員の立場でも副業として認められるかもしれませんね！



竹安さん、いっしょに講師しましょう。ぜひお待ちしております！

今後ともよろしくお願いします！

ダイバーシティ部門

佐伯 侑大さん

取得資格



父として、教育者として、育児セラピストとして、発信し続ける

佐伯さんは、もともと中学校の社会科教諭で、奥さまと入れ替わりで1年間の育児休暇を取得して、ワンオペ育児を経験しています。現在は、子育てをふくめたライフスタイルを見直して、小学校に転任されています。

また、竹安さんと同じ「育児セラピスト Men's グレンジャー」のブルーとして、育児休暇でワンオペ育児を経験したパパとして、教師として、さまざまな視点からブログを執筆しています。



妻に負けたくない!という思いから、 育児セラピストを受講

育児を取って、ワンオペ育児がはじまって間もなく、私の中にある思いが芽生えます。

『妻への対抗心』

子どもが大きくなったとき、妻から「わたしのおかげよ!」と言われたくない。妻に負けたくない、なにか妻に対抗できる武器を手に入れたい、と思いました。

妻は、みずからの育児に、独自のこだわりと方針を持っていました。私は、それに対抗するために、「育児」というものを、より広く、多角的な視点から学ぼうと考えました。男性である自分は、理論やメカニズムがわかると、理解がより深まります。そして辿りついた答えが「育児セラピスト」の受講でした。

受講してみると、妻とは違う、父親独自の理解を得ることが出来たと実感できました。“父親ならではの関わり”や、“子育てにおける父親の役割”についても学びました。さらに、対人援助法やカウンセリングといった、妻が知らない分野についても学ぶことが出来ました。

武器を得た私に芽生えたのは、 父親としてのマインドセットだった

武器を得た私は、育児をとおして「父親としてのマインドセット」を確立することができました。娘は極度な人見知り、場所見知りです。また分離不安も人一倍強い子でした。当初は、「この子は、いわゆる問題児なんじゃないか?」と思ったこ



ともあります。しかし、講座で学んだあとは、これが「成長の証」なのだと理解できるようになりました。

また、講座では、アロマザリング（母親以外の人による育児への関わり）の重要性や、社会性の育ちにおける父親の関わりの重要性を学びました。母親の代わりをしようとする、それがやりきれなくて落ち込みます。しかし、父親の関わりも、子どもには重要であることを知ると、より自信を持って育児ができるようになりました。

受講してしばらくしたころ、私の中に、男として、夫として、父親としての自信のようなものが芽生えていたことを感じました。同時に、妻への気持ちは、いつしか「対抗心」から「尊敬」に代わってゆきました。

子育ては、対抗戦じゃない、 お互いの尊敬によって成立するものだ

講座でアタッチメント理論や発達心理学を学んで、ワンオペ育児を経験した今だからわかることがあります。それは・・・

妻の日々の育児のすごさ

これをあらためて実感するばかりです。「いろいろこだわってやっているな～」と私が漠然と思っていたことは、すべて背景と裏付けに基づいていました。今の私なら、それがすべて説明できます。

長女は2歳になってイヤイヤ期の真っ最中です。妻は、そんな娘に対して、「語りかけ」を大切にします。イヤイヤ期は、自主性と自律性の芽生えです。だから、「なにがイヤなのか」「どうしたいのか」をちゃんとコミュニケーションします。次女には、布おむつを実践しています。心地悪さを感じること、おしっこやうんこを知らせてくれる。そのうち、こちらも、トイレのタイミングが読み取れるようになる。高機能な紙オムツでは、こうはいきません。こうした一つ一つには、裏付けと意味があり、そこには、母としての思いが詰まっていることがわかるようになりました。だから、妻のことは尊敬なんです。自分も「育児セラピスト」という知識を得て、「自信」ができたからこそ、そう言えるようになったのだと思っています。



アタッチメントは、教師としての私に “新たなスタンス”を与えてくれた

私は“教師として重要な職能”は、「子ども理解力」だと考えています。授業するにしても、部活動にしても、学校生活でも、「その子がどんな子なのか」を、教師が把握し、理解し、それに合わせて対応する能力が、教師には欠かせません。とくに、学校生活では、「どんなことに困っているのか（困り感）」の把握が重要です。子どもの問題行動に対して、子どもの「困り感」を観察することで、これまで対応してきました。

アタッチメントを学んだことで、ここに「家庭（親）」という視点が加わりました。それによって、「子ども理解力」に厚みが増しました。問題行動のなかには、愛着不足による二次的な「困り感」が存在します。愛着不足による問題行動は、子どもへのアプローチだけでは解決しません。家庭のなかに困り感が存在するので、親を含めた「家庭」に働きかける必要があります。この“スタンス”は、これまで教師の中には存在しませんでした。その意味で、われわれ教師に、まったく新しい“スタンス”を提案してくれました。

教師の立場からでも、生徒のアタッチメントを築いてあげられる。

アタッチメントは、そう言い切れるだけの根拠を与えてくれました。これは、すべての教師にとっての『希望』です。「教師の存在意義」を一段も二段も高めるほどのインパクトでした。本当に感謝しています。



ブログや座談会をはじめ、メディアで 発信しつづける男性としての私

社会科の教師なので、社会の授業っぽい視点なのですが、「女性の社会進出」が進んだのは、女性が社会の議論に参加していったプロセスでもありました。同じように、これからは「男性の家庭進出」の時代です。そのためには、かつての女性のように、男性も育児の議論に参加する必要があると感じています。

こんな風に思うきっかけとなったのが、いまやっている「育児セラピスト Men's グレンジャー Blog」や「育児セラピスト座談会」でした。こういう場で、パパの本音や価値観をちゃんと表現して、それをブログで公開したり、座談会で発言したりすることを、今はとても大事に思っています。

発信し続けていると、やがて“大きな場” から声がかかるようになる

こうして、発信を続けているうちに、発信の場に広がりが生まれてきました。

NHK すくすく子育て「ママ友・パパ友の悩み」、NHK 未来スイッチ「パパの育休とりやすく」などテレビ出演の機会ももらいました。こうした“大きな場”での発信の機会は、じつは、ブログや座談会といった小さな積み重ねの中から生じていることを実感します。

最後に、育児セラピストとして、私は、これからも発信し続けていこうと思います。そのうえで、大事にしたいことを3つご紹介します。

1. リアルな声にしっかりと耳を傾ける
もっとも身近なリアルな声である「妻の声」「わが子の声」をちゃんと聴く
2. 自分もリアルな声を発信する
身近な声を聞いた自分が、思ったこと、考えたことを、ブログや座談会で発信し続ける
3. 父として、教師として、実践する
発信した自分が、家庭の現場で、学校という仕事の現場で、実際にやってみる。

これからも育児セラピストとして、「聴く・発信する・実践する」をまわし続けます。それが、父として、教師として、人間として成長することだと考えています。

お聴きいただいて、ありがとうございました。



佐伯さんの発表を聴いて・・・廣島の講評

佐伯さん、ありがとうございました。冒頭の話は、おもしろいですね。奥さんへの対抗心から、育児セラピストを受講して、奥さんを「ギャフン」と言わせてやろうと思った。でも、知識が増えるほどに、自分が「ギャフン」という羽目になった。

実際に、奥さんはスゴイです！2歳のイヤイヤ期の娘さんに、服を選ばせる。そこで生まれる対話を大事にしている、というのはアタッチメントですね！ちゃんと、to do の先の成長を見越しています。妻の実践を夫の佐伯さんが、理論として理解しているところが、ステキなご夫婦です。

そして、さすが社会の先生です。「女性の社会進出」にかけて「男性の家庭進出」に着眼したのは見事です。実際、男性育休だとか、パパの育児だとか言っているも、**女性と同じ熱量で子どものこと、教育のこと、家庭のことを語れなければ、ただのデモンストレーションに過ぎません。**

最後に、小学校教師の竹安さんと中学校教師の佐伯さんが、今回、アタッチメントをとおして同じところに着地したのは、非常に興味深かったです。「これまでは、教師として子どもだけを観てきた。しかし、アタッチメントを学んで、親の影響を知り、家庭という新たな視点を得た。」というわけです。まったく違う時期に、違う講師の「育児セラピスト1級」を受けた二人の教師が、アタッチメント理論をとおして、同じ結論に達したのです。学校の先生が、「家庭（親）」という新たなスタンスを得ました。これが広まれば、教育を変えるインパクトです。「育児セラピスト1級」をとおして、そんなことが、起こったことが、本当にうれしいし、未来に希望が持てる事実だと思っています。

佐伯さん、ありがとうございました。





優秀実践者表彰式・実践発表への感想

岡田さんは、商工会議所に入って事業展開されているのがすごいなと思いました。
佐伯さんは、パパの育児セラピストとしての重要性を詳細に言語化してくれて納得しながら聞いていました。

公務員（教諭） 40代 兵庫県

岡田さんの「みつよルーム」を立ち上げられた熱意を感じました。それとともに経営面でのご苦労もお聴きでき、これから起業される方には大変参考になったと思います。
竹安さん佐伯さんは、「育児セラピスト Men's ゴレンジャー」でいらっしゃり、パパさんであり、そして教育に関わるお仕事をされていて頼もしいです。お二人のような先生が増えることを願っています。
「パパさんはママさんの前では、育児への本音は話しづらいので、できれば一人の時に…」がとても参考になり子育てサロンの場でも活かしたく思います。

保育士・子育て支援員 60代 神奈川県

岡田さんは、ボランティアから始まった具体的な話を聞くことができ、とても興味深かったです。もっと聞きたかったです。
竹安さんと佐伯さんは、パパの視点とお気持ちを聞くことができたことも楽しくてとても良かったです。そして、小中学生と関わってきた私にとって、学校の先生がアタッチメントを学び行動してくれていることに、感謝と感激と喜びでいっぱいでした。

40代 埼玉県

発表では実体験を交えての話を聞くことができ、自分の描いている将来のことをより身近に考えることができるよい機会となりました。

保育士 30代 岡山県

このほかのご感想はこちらから
ご覧いただけます！



東京会場・ランチミーティング

美味しいランチを食べながらのおしゃべりは、やっぱり楽しい！



3年ぶりの3pm (さんじ)
さんのランチBOX



グループごとに会話を
楽しみました！

あなたのお悩みを、みんなでスーパーバイズ 2022

例年、ご好評いただいているスーパーバイズを、今年もリアル×オンラインで行いました。

「いま抱えている問題・悩み」をグループごとに話し合ってもらい、それに対して当協会理事長の廣島のスーパーバイズのもと、参加者全員から意見をもらう、というものです。

オンライン会場のルーム1

保育園のせいにする親御さんに、どう対応したらよいでしょうか？

Q

熊本県の吉野さんが、代表してお悩みを発表してくれました。

最近のお母さんの中には、家に帰って、自分の子どもの機嫌が悪いと、次の日に「昨日、家で、ずっとグズってたんですが、保育園で何かあったんですか？」と言ってくるケースがあります。担当保育士からすると、「家でもう少しかまってあげて欲しい」という懸念を持っている子だったりします。

そのことを、お母さんに伝えたいが、若い保育士は、うまく伝えられる自信がないとか、逆に怒らせてしまうのが怖いとか、「子育ての経験もないのに」と言われてしまったりした経験があって、なにも言えない場面があります。

いまのお母さんは、昔に比べると、気を遣わなければいけない人が多くなっていると思います。こういうお母さんに、若い保育士でもできる良い伝え方、あるいは、アドバイスなどありますでしょうか？

A

『保護者は、子どもに起きた問題行動を保育園のせいにする。保育園としては、子どもの問題は、園だけでは解決できないので、家庭の問題にも目を向けてほしい。お互いが、ストレートに意見を言い合えば、正面对決になってしまう。』こんな状況で、保育園として何ができるか？どうすれば伝

わるか？

心理学は、よい方法を提案してくれています。

「話しをななめ上か、ななめ下にズラす」

「事実の積み上げをする」

子どもの問題行動の話をしているのですが、それを少しズラして答えます。「今日のお子さんは、〇〇のときは機嫌よくできていましたよ。」「□□のときは、積極的に楽しそうに取り組んでいましたよ。」「△△のときは、グズって泣いてしまったけど、保育士が抱っこしてあげたら、すぐに機嫌をなおして遊んでくれましたよ」……こんな風にして、その日の子どもの様子を、事実のみの積み重ねで伝えます。

このとき「〇〇だと思うんです。〇〇と感じました。」といった主観的な表現をしないで、「〇〇でした。」という事実だけを積み重ねます。すると、事実の先にある意味が、保護者に伝わります。

今日は保育園で、楽しんだことも、積極的にできたこともあった。グズったり、泣いたりもしたけど、その都度解決して、機嫌をもどして、最終的には楽しむことができた。これらは、事実として、保護者に伝わります。

そのうえで、「〇〇くんは、抱っこしてあげると、すぐに機嫌をもどしてくれますね。立ち直りが早い子です」などと付け加えます。これを聞いた保護者は、「抱っこをすると機嫌がなおる」ということと「わが子は、立ち直りが早い」という事実を持ち帰ります。これが、「家でグズったときに抱っこする」という“こちらが保護者に期待する行動”につながるかもしれません。このとき、「ネガティブな事実」を伝えつつ、「よい事実」で終えることが重要です。

いずれにしても、若い保育士さんにとっては、むずかしいかもしれません。なので、吉野さんたちベテラン勢が、お手本を見せてあげることが大事だと思います。



オンライン会場のルーム 2

ベビーマッサージ教室をはじめたいが、保育士の仕事と並行するか、やめて教室一本でやるか、決めかねています



福井県から K さんが、グループの悩みを代表して発表してくれました。

資格をとったあと、どのように活動をしていくとよいのか？いまは保育士としてパート勤務していますが、保育士を続けながら、ベビーマッサージ教室をするのか、保育士をやめてベビーマッサージ教室一本にしぼるのか、決めかねています。



まず、保育士を続けながらやるか、やめて立ち上げるかについては、一般的に言えば、前者でしょう。その方が、収入も安定するし、立ち上げも楽にできます。仕事をやめて一本でやるとしても、徐々に移行していくという形もあるでしょう。

今回優秀実践発表をしてくれた岡田さんが、起業した経験をもとに話してくれました。

『仕事をやめて、一本でやっていくというのは、安定しません。収入どころか、時には持ち出しになることもあります。正直に言って、事業を収益化するのには苦労しています。』

相談者さんは、現状で保育士として勤務されているので、その保育園を拠点に、子育て支援としてベビーマッ

サージ教室を展開するのが、一番現実的です。はじめの一步として、お勤めの保育園でやっている子育て支援の担当に入ることから始めてはいかがでしょうか。保育園の子育て支援をからめれば、集客する必要はありません。もともと地域のお母さんが集まる流れが出来ているでしょうから、あとは告知するだけです。

最初は、構想が大きくふくらみます。それは、大事なことで、きちんと取っておいてください。その構想を、同じベクトル上で、出来る限りリスクのないカタチで現実適合させて、スタートアップするのがよいです。

熊本県から参加する吉野さんは、好例となるでしょう。保育士をしながら、育児セラピストとして活動して、徐々に重心を育児セラピストの活動のほうにシフトしました。

「ようやく、保育士をやめて、育児セラピスト一本でやるようになりました。当初から、行政に関わって、ベビーマッサージと発達支援を軸に活動するイメージをもって、そこに向かうようにやってきました。いま、ようやく市から発達支援の専門家として声がかかるようになり、行政の仕事として、保育園の発達支援指導員として、関わるようになりました。くじけることもありましたが、自分の構想をイメージし続ければ、必ずそこへたどり着くと思います。」



オンライン会場のルーム 3

ベビーマッサージ教室をはじめたときのような熱い気持ちが、 日常の仕事に忙殺されて失くなっています。 どうしたら、ふたたび情熱的に活動できるでしょうか？



滋賀県からご参加の小崎さんが、グループの悩みを代表して発表してくれました。

相談者さんは、いま現在、正規職員の保育士として小規模認可園で働いています。今年に入って、職員が何人か辞めてしまって、少ない人数でまわさなければならない状況が続いています。50歳半ばで、体力的にも不安があるなかで、このまま続けていけるか不安を抱えています。

もともと、アタッチメント・ベビーマッサージの資格を取ったことが“はじまり”でした。ベビーマッサージ教室をやる上で、自分にもっと自信をつけたいという思いから、保育士の資格を取って、今に至っています。

今回、全国大会に参加して、みなさんの子どもに対する熱い思いや、社会貢献に対する情熱に触れて、自分も初心に帰った思いがしました。アタッチメント・ベビーマッサージ講座を受講した時は、衝撃的で、涙があふれて「これしかない!」と思ったことを、あらためて思い出しました。

いまもその気持ちは、変わりませんが、日々の忙しさに忙殺されてしまって、あの頃の気持ちがかき消されてしまっているのも事実です。あのころのような情熱をとり戻さないと、自分が思っているような子育て支援の活動はままならないと思いました。

どうしたら、あのころのような気持ちで、ふたたび情熱的に保育や子育て支援に邁進できるのでしょうか？



まずはわたしから、アドバイスをさせていただこうと思いました。相談者の方は、体力的に疲れ切っておられると思います。人間は、体力的に疲れていると、“考える”という行動ができなくなり、代わりに“悩む”を繰り返してしまいます。これは、行動する余力がない人の、正常な防衛反応で

す。こうした体の防衛反応には、素直に従わねばなりません。だから、将来を考えるのは、体の休息をとって、体力が戻ってからにしなければなりません。

これについて、先輩の話を聞いてみましょう。

「(今回優秀実践発表してくれた)岡田さんなんかも、このような経験があったのではないですか？」

「私のときは、やる気を失ってしまって、3か月動けなかった時期があります。ひとしきり寝込んで、回復してくると『やっぱりやりたい!』という気持ちが湧いてきて、再び走り出しました。」

いま、情熱的に未来を語っている岡田さんだって、やる気を失っていた時期があるわけです。気力がなくなっていると感じたら、できるだけ早く体を休めた方が、軽く済みます。

そうは言っても、「自分がいま休んだら、大きな迷惑をかけてしまう。園がまわらなくなってしまうかもしれない」そう思うことでしょう。それでも、まず3日間休みをとってください。まったく仕事のことは忘れて、3日間なにも

もしないで、寝て過ごしてみてください。大事なものは、すべてを捨てて無責任になることです。

まわりに迷惑が掛かったとしても、たった3日です。大きな問題は生じません。騙されたと思って、休んでみてください。ズル休み、大いに結構!それよりも、倒れてしまったら、心折れてしまったら、その方が大変なのです。



東京会場 (アタッチメント・アカデミア)

小・中・高の親の悩みや子どもの問題を相談できる先が、 行政の仕組みに存在しません。どこを頼ればよいのでしょうか?



東京会場に参加された中山さんが、代表してお悩みを発表してくれました。

子育て支援というと、0～5歳が主体です。ギャングエイジの9歳、中2の反抗期、思春期、青年期・・・子どもが何歳になっても、親の悩みは尽きないはずですよ。それなのに、小学生以降の子どもの親に対する子育て支援がありません。行政のどこで、小・中・高の子どもの親の話を聞いてくれるのでしょうか?どこで悩みを相談すればいいのでしょうか?



これについては、中学校の先生をしていた佐伯さんが意見をくれました。

「学校というのは、どうしても“ことが起こってから”対応する組織です。子どもが不登校になった、家でDVが起きた・・・そうなってから、『スクールカウンセラーをつけよう』『SSW(スクールソーシャルワーカー)に話を聞こう』という対応をします。

現場の教員として思うのは、いかにして予防的に、火種の段階で、それらを摘み取っていけるのかという



ことです。その受け皿として、学校は役割を果たせていません。スクールカウンセラーも、SSW（スクールソーシャルワーカー）も足りていません。この問題の重要性は、現場にいて強く感じています。」

佐伯さんの言うとおり、行政に解決策はありません。この問題は、行政に頼ることはできないと、わたしは考えています。行政を当てにしているうちに、お母さんの心が、子どもの心が折れてしまいます。

「相談できる先を、みずから見つける」ことが必要です。

そのためには、あらかじめ“適切な受け皿”を探しておく必要があります。悩み始めてからでは遅いのです。その“適切な受け皿”たり得る場所はどこにあるのか？

ひとつ提案できるのは、地元にある心理学部を擁する大学です。そうした大学の多くは、カウンセリングルームを持っています。それは、心理職を志す学生のOJTの場でもあるので、一般の相談を安価で受け付けています。学生と言っても対応するのは院生で、その大学の教授や准教授がスーパーバイザーとしてバックアップしていますので、レベルは高いうえに、親身に相談にのってくれることが期待できます。

これなら、多くの人にとって応用が利きます。無料ではありませんが、生活を圧迫するほどの相談料ではありません。

現代人にとって「気軽に相談できるカウンセラー」の存在が、必須となる時代がやってきています。当協会でも、一昨年に「アタッチメント・心理カウンセラー」の講座を開講しました。その意図は、まさにここにあります。

アタッチメントを実感している人が、カウンセリングを学び、大人も子どもも対応できる。育児セラピストは、全国に1万人います。その人たちのなかで、カウンセリングを学んだ人が、地域の親の相談の受け皿になり得ます。しかし、それは、行政の枠組みにおいてではないと思っています。むしろ、ベビーマッサージ教室の始まりの時のような形ではないかと考えています。



オンライン会場・ルーム2のお悩みの付録

ベビーマッサージの教室をやっていますが、新規集客がうまくいかず、開催が少ないため継続にもつなげられていません。
なにかアドバイスをお願いします。



福岡県から参加の青木さんから、集客に関するお悩みです。

現在、3歳からの子どもの運動教室をしながら、月に2回「親子フィットネス」という名前で、ベビーマッサージの教室をやっています。運動教室のほうは、うまく回っているのですが、親子フィットネスの方は、月2回なので間があいてしまうこともあって、次のリピートにつながらず、新規も増えない状態です。

現在は、個人のインスタグラムと、会場として使用している施設の公式インスタグラムの両方から告知をして集客をしています。多くて6組、少ないときは2組くらい、という現状です。ほかに、よい集客方法があれば、ぜひ教えてください！

A

現状のインスタグラムによる集客で、6組とか2組の親子が来てくれているということです。ただ、なかなか継続してもらえない。新規の生徒さんも多くは集まっていない、という現状だということです。そうだとすると、話しはとも簡単です。

青木さんの悩みは、「集客」ではありません。そのもう一つ上の「継続」と「クチコミ」の段階です。すでに集客に成功している8組の親子がいます。この人たちが、教室に120%満足してくれれば、次もまた来てくれます。つまり、「継続」です。さらに、その人たちは、120%満足したことを、他のお母さんに話します。そして、青木さんの教室を薦めてくれます。これが「クチコミ」です。クチコミは、必ず起こるものです。なぜなら、女性はとくに、「良い商品や体験があったら、それをほかの知り合いに伝えたい」ものだからです。つまり、120%満足してもらえば、クチコミは必ず起こります。これが、「次の段階の集客」として機能するわけです。

立ち上げ当初は、エネルギーを注ぐ先を、つねに変える必要があります。このように、複数のフェーズで事業を捉えるのが、マーケティングです。つまり、青木さんの今の課題は、集客ではなく、「いかにして120%満足を与えられるか」です。そのための企画やカリキュラム構成、プログラムを考えることです。

ベビーマッサージ教室を例にしましょう。ベビーマッサージを学ぶのは、“表の欲求”です。これだけだと最高に満足してもらっても100%にしかありません。120%の満足を得るには、“裏の欲求”を満たす必要があります。

「ベビーマッサージを習いたい!」お母さんの裏の欲求はなにか?それを考えるのです。やることは簡単です。「裏の欲求は何か?」見当をつけて、「今日は、こういう時間を作ってみました」と試してみればよいだけです。その見当が合っていれば、120%満足になります。そうでなくても「自分のために、考えてやってくれている」という姿勢が伝わって、やはり120%満足を生むのです。つまり、工夫し続けていれば、必ず120%満足につながるのです。その際、いつも新しいことをやる必要はありません。見当が合っていたものは、レギュラー化してゆけばよいのです。ちなみに、もっともポピュラーな裏の欲求は、「悩みを聞いて欲しい」、「相談がしたい」、「同年代の子をもつお母さんと知り合いたい」といったものです。

まとめると、最初は、集客に力を入れます。数組ずつでも、集客ができるようになったら、こんどは、その人たちに120%満足してもらうことに、力の入れどころをシフトします。最初の人たちが、120%満足すると、



継続リポートしてくれるようになります。そこで、土台ができます。

さらに、この人たちは、満足の気持ちをクチコミしてくれます。すると、新規のお客さんが徐々に増え始めます。こうやって、うまく回りはじめるまでには、3〜6か月くらいかかります。回りはじめれば、集客をしなくても、クチコミだけで新規の生徒が一定数来るようになります。新規の生徒さんの多くがリピートで定着してくれれば、いずれキャパシティはいっぱいになります。

子育て支援の場合、このやり方が、もっとうまくいきます。お金をかけて集客すれば、それな



りの数の生徒を、短期間で集めることが出来ます。しかし、これに頼ってしまうと、集客し続けなければならなくなって、一向に収支が合いません。そして、最終的に疲れ果ててしまいます。

子育てと同じです。時間をかけて、手間をかけることが重要です。そうして来てくれた生徒さんは、長くつながってくれて、クチコミも活発にしてくれます。

子どもを育てるように教室を運営すれば、かならず軌道に乗ります。



お悩みスーパーバイズへの感想

皆さんの悩みの中で、廣島先生がおっしゃったことがとても心に残っています。『120%を出し切って、お母さん達が満足することが、次に繋がる』とても大事だと思います。『本気の120%』全力で頑張っていこうと思います。

保育士 50代 埼玉

画面越しでしたが、悩みは自分の悩んでいるものと似ているものもあり、一人じゃないと感じることができて安心できました。

保育士 30代 岡山県

それ聞きたかった！という悩み、または世代や立場が違う方々目線でのお悩みも聞けて、そのアドバイスまで共有できて勉強になりました。

整体師 30代 愛知県

子育て支援センター等で働いておられる方々は、育児の最前線で活躍しておられました。誰かの悩みに寄り添う姿がまさに、「セラピスト」でした。

自分も父として、教師として、セラピストの顔も大切にしていきたいと思いました。

小学校教諭 30代 奈良県

このほかのご感想はこちらから
ご覧いただけます！



スタッフより あしがき



桑山 美樹 (事務局長)

アタッチメント・アカデミア東京から、2回目の
全国大会でした。
お天気もよく、会場からの眺めは最高でした！
これから、この会場を活かして様々な活動をして
まいります。
ぜひ、一度足をお運びください！！



松尾 彰俊 (システム)

今年度もハイブリッドでの開催
ということで、モチベーション
の高い受講生の方々をみるこ
とができ、私自身もエネルギーを
もらうことができました。

今回の参加者を見ているとコロ
ナ禍という意識が徐々に解かれていることを強く感
じました、次回開催の頃には現地で多くの人が出
会う全国大会になっていることでしょう。



塩澤 美月 (事務局)

日ごろ、お電話やメールに
てお話をさせていただいて
いる皆様に直接お会いする
機会は、この、全国大会しか
ないので、毎年とても楽し
みにしております。

皆様のパワー溢れる活躍をお聞きし、嬉しくな
りました。

陰ながらではございますが、今後も皆様のお力
になれば幸いです。



岸本 香織 (編集)

私は名古屋よりオンラインで参加させて
いただきました。

寺下先生が講演でおっしゃった「皆さん
こそが、アタッチメントの素晴らしき実
践者です」という言葉。

本当におっしゃる通りだと思いました。

私は、そんな皆様のお役に少しでも立てるように、これから
も精進していきたいです。

また、今号のご感想やご意見などを、お聞かせいただけたら
嬉しいです！



中塚 遥華 (事務局)

今回初めて準備などで全国
大会に携わらせていただき
ました。

多くの方が参加され、改め
て子育てに関わる人の多さ
を実感しました。

また次回も、同じ形で携わることができればと
思っています。

全国大会お疲れさまでした！



花田 光代 (事務局)

開催後、参加されたみなさまのアンケートを拝見させていただきました。

とても有意義な時間を過ごされた様子を伺うことができ、また、参加された皆さまの親
子を支援したいという熱い思いに接することができ、大変幸せな気持ちになりました。
これからも皆様のお役に立てるように頑張らないと！と私も熱い気持ちになりました。
ご参加ありがとうございました。



今年の全国大会は、参加したみなさんの話や意見、悩み、感想、将来の展望を
聞いて、あらためて思い知らされました。

「育児セラピストは、スゴいな〜！」

わたしが12年前に思い描いた育児セラピストよりも、いまのみなさんの方が、
スゴいんです。その情熱も、その志も、そのビジョンも、その活動も。すべて、
私の想像を超えています。まったく、スゴい人たちが集まったものだ！と思いま
す。

皆さんのことを見て、これからそれに続く人がたくさんいることでしょう。

そして、みなさんのことを、もっともっと応援したい！そう思いました。わた
しの人生の後半を捧げるライフワークです。純粋にそう思っています。全国大会が終わって、この会報誌の原稿
を執筆していて、その気持ちは、ますます大きくなっています。

2023年も、いっしょに走りましょう！

(社)日本アタッチメント育児協会 理事長 廣島 大三



発行：一般社団法人 日本アタッチメント育児協会

本部 愛知県名古屋市熱田区金山町 1 丁目 13-14 アールワン金山 3F
アタッチメント・アカデミア 東京都文京区春日 2-10-15 志知ビル 7F

URL : <https://www.naik.jp> E-mail : info@naik.jp

TEL : 052-265-6526 FAX : 052-265-6529

発行日 2023 年 1 月 7 日